

## 平成30年度 前期終業式 式辞

本日の前期終業式は、出張のため学校を不在にしますので、ビデオメッセージという形で話をしたいと思います。今日は2つのことをお話しします。

ひとつ目の話です。今年の夏は異常気象の夏でした。猛暑、7月の大雨、9月の台風20号と21号、それに加えて6月の大阪北部地震、9月には北海道でも大きな地震がありました。建物への被害、交通機関のストップ、広範囲の停電で不自由な目に合うだけでなく、何人もの方々が亡くなったり、けがをされたりしました。みなさんのご家族や家は大丈夫だったでしょうか。

ひとたび大きな災害が起こると、家族や友人の安否がわからない、情報が得られずどこでどうなっているか、これからどうなるのかわからない・・・など、不安が増すものです。家族や学校との連絡手段や家のまわりの危険な箇所を、もう一度よく確認しておいてほしいと思います。香風メールの登録をしていない人は、必ず登録してください。

ふたつ目の話です。4月の入学式と始業式の式辞の中で、私が「香風高校は多様性を大切にしている」というお話しをしたのを覚えていますか。前期の学校生活を終えて、みなさんは今、「香風の多様性」について、どのように感じているでしょうか。

「香風にはいろんな生徒がいる」「人の考え方はさまざまである」ことを実感した人も多いことでしょう。しかし、正直なところ、「多様性があることはすばらしい」と思えないこともあったのではないのでしょうか。自分には全く理解できないような発言や振る舞いに、あきれたり、腹を立てたりした場面はありませんでしたか。また、あなたの自分勝手な行動で、まわりのひとを傷つけたことはなかったのでしょうか。

ここで、ひとつの詩を紹介します。

私と小鳥と鈴と

金子みすゞ

私が両手をひろげても、  
お空はちつとも飛べないが、  
飛べる小鳥は私のように、  
地面じべたを速くは走れない。  
私がかからだをゆすつても、  
きれいな音はでないけど、  
あの鳴る鈴は私のように  
たくさんな唄は知らないよ。  
鈴と、小鳥と、それから私、  
みんなちがつて、みんないい。

私はこの詩は、「ちがつていること」のすばらしさだけを表現したものではないと思っています。

自分ができること、できないことに気づくこと。

他の人の得意なこと、苦手なことを理解すること。

自分を大切にするとともに、相手を大切にすることを忘れないこと。

これらのことができはじめて、「多様性」のすばらしさを、みんなで味わうことができるのではないかと私は感じました。この詩から、みなさんはどんなメッセージを受け取ったのでしょうか。是非、聞いてみたいと思います。

この詩集は図書室に置いておきますので、よければ手に取ってみてください。自分自身を振り返ったり、他の人を理解したりするのに、本はよき道案内をしてくれます。この秋は、図書室で自分にとっての大切な1冊を見つけてください。

以上で、前期終業式の式辞とします。

平成30年9月21日

兵庫県立西宮香風高等学校長

石川 照子